

うしく里山の会 広報誌

さとやま

No.106

2011年12月号

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>

カシ (常陸太田市赤土町内)



どこんじょう 巨樹発信!



「巨木を語ろう全国フォーラム」に参加して

巨木リサーチ2事業 羽賀 正雄

常陸太田大会を飾る2本の巨木
プログラム表紙のカシと会場入り口のスギ

去る十月二十九日(土)、常陸太田市(市民交流センター)において第二十四回「巨木を語ろう全国フォーラム」が開催され、巨木リサーチ事業のメンバー六名と柳下係長(緑化推進課)さんとで参加しました。

会場入口を入ると、突然、巨木のモニュメントが目にとまりました。地元高校生たちが制作したペットボトルによる作品で、市内「真弓神社の爺杉」がモデルとのこと・・・そのアイデアと六万本余のボトルを積み上げたド根性に感動です。

館内外には特産品や巨木文献の販売店が設けられ、牛久里山の会のブースで「牛久の巨樹」をPRし、柳下さんのご尽力で二〇冊ほど販売しました

午前中は第十八回「全国巨樹・巨木林の会」総会が開かれ、午後からフォーラムが始まりました。先ず各地区からの活動報告がなされ、なじみの「利根タプノキ会」から樹名板取付けについて、カタカナと漢字を併記した樹名板(ボダイジュ=菩提樹)を使用しているとの説明がありました。

次いで、市立瑞竜小学校全員五十五名によるミュージカル「命の輝き 瑞桜と共に」が上演されました。校庭の中央に根を張る「瑞桜」を舞台とし、四季と歴史を織交ぜながら生徒たちの思いを集約したもので、見事な演出でした。

この後、パネルディスカッションが行われましたが、巨木に対するパネリスト(五名)の思いなど漠然とした内容で期待はずれでした。ただ、瑞竜小学校からの「新入生を迎えた春、全生徒が満開の桜の下でお花見給食会を行う」との話に、あの子供たちの演技力は何処から来たのかに、答を得た気がしました。

フォーラム、総会の会場はいずれも満席で、地元・全国の人たちの巨木への情熱を感じた催しでした。同時に私たちの巨木への取組みの意義を問う場ともなりました。

真弓神社の爺杉

常陸太田市、樹齢約九〇〇年、

幹周 九・六m、樹高 四十五m



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

プロジェクト活動報告

ツルカゴ教室に想う

秋が深まった十月三〇日、毎年この時期に牛久市の広報誌で参加者を募集して実施される「ツルカゴ教室」が今年も開催された。

「ツルカゴ教室」は近年人気が高く募集時にすぐ定員が埋まってしまう有様。昨年などは定員の倍も申し込みがあり、ツル集めに会員が四苦八苦してようやく大量に採取したが、当日台風の接近で教室が中止になってしまった苦い経験がありました。

今回の参加者は当日参加の人も含めて二十五名！毎年楽しみに参加の人、昨年は中止で一年間待った人、今年初めて参加の人等それぞれの思い（期待）を込めて「ツルカゴ教室」が始まった。

会員仲間の講師の的確な指導で、参加者それぞれが作るカゴをイメージしたツルの選択、大きさを想定しての芯材選び、編み始めの注意事項等をわかりやすく教える。又、参加者全員に配布された教材（パンフレット）も年々回を重ねるたびにわかりやすく改訂され、参加者の理解を深める一助となっている。

一通り基本的な「ツルの編み方」を教わり、いよいよそれぞれのツルカゴ作りが始まった。小ささまざまなツルと格闘すること一時間あまりでようやく概容が見え始めた所で昼食となった。

今回の昼食は三種類の鍋（カレーうどん、みそ味豚汁、醤油味すいとん汁）がメインでシェフは雑木林応援隊男性軍が担当する男の料理である。

参加者は、旨い！旨い！の連発で応援隊スタッフを含めて作った鍋汁はすべて完食。

昼食後、参加者は一斉に「ツルカゴあみ」の仕上



雑木林応援隊

原口 隆男



世界に一つのツルかごを手にご満悦の記念写真

げに入る。早い人、遅い人で個々には差があるがスタッフの熱心な応援があつて個性的な作品が次々と完成した。その出来映えにみんな大喜び！

一時頃には出来上がった世界で一つだけの自分の作品を前にご満悦で、指導にあたったスタッフと共に、全員で記念撮影をして終了した。

想えば二〇〇二年十月に雑木林の会でツルカゴ編みを専門にする指導員を招いて全員で指導を受けたのが始まりである。

その後、毎年自分達でこつこつと努力を重ねて来て今日では、うしく里山の会のイベント「ツルカゴ教室」として募集して参加者の方々に大変喜んでもらえるに至ったことは隔世の感がある。



親子農業体験講座
一般参加者 フライ ラリー

Our family moved from Setagaya ku in Tokyo to Ushiku City about 1 and a half years ago. It was very refreshing for us and our children to get out of the smoggy city and concrete jungle and live in a

nice city with bountiful nature and clean air.

My wife mentioned a community farm group and I thought it sounded like a wonderful idea so we joined. We thought it would be a wonderful opportunity for our children to learn about nature, understand where our food comes from and make some new friends.

The first day was quite hard as my oldest daughter, 3 years old is quite shy and she also hated to get her hands dirty. That day we tilled the first tilled the soil and then planted several kinds of potatoes. My wife was not able to come that first day so besides tilling the soil I mostly had to hold my oldest daughter, the youngest one was not yet born.

However, my daughter became somewhat less shy at break time, everyone brought some snacks, except us, but the people in the group were so kind and shared with us.

After the break my daughter was more relaxed and she started to run around the field. She was a great help in planting the potatoes and soon we had 2 nice rows of Idaho potatoes that we hoped would grow into big, big plants, as both her and I love French Fries.

It was a joy to see her as some of the other children found a large frog and picked it up. I thought she would be scared, but she was very active in holding it.

Of course she cried when she saw how dirty her hands had become, so we went to wash them.

On the way home, I asked her if she enjoyed it, and she said, "I do not want to come back." However, during the week she changed her mind.

We have now been going to the farm as much as we can, sometimes my wife and youngest, now 1, come along.

I am very happy we have joined. My oldest daughter has become very interested in her plants and the farm. She is no longer afraid to get her hands dirty, she looks forward to going. She has enjoyed talking with the organizers of this group who give their time for the young children of Ushiku, I appreciate their work and this group tremendously.

As a parent, I feel it is very important for young children to learn and love nature. I also very much enjoy watching my daughters discover not just about how to grow plants, but also about how the outdoors really enriches all of our lives.

My daughter now loves the farm group, especially as she knows we will stop at the convenience store on the way there to buy some of her favorite sembei.

For myself, the farm group is a very special time, I work in Tokyo and do not get a lot of time to spend alone with my children. This group gives me that chance.

For this I am eternally thankful.

自然とのふれあい
 昨年の春に東京都世田谷区から引っ越してきた私たちの家族にとって、自然豊かで澄んだ空気の牛久市での生活はとても新鮮でした。都会では決して体験することのできない農業体験を通して、子どもたちにとどのように作物は作られるのかを教え、さらに新しい土地で知り合いを作ることができたら素晴らしいことではないかという期待を抱えての農業体験でした。
 初日は手が汚れるのを嫌がっていた三歳の長女は、回数を重ねるに連れ農業体験を心待ちにする様になり、畑を走り回るまでになりました。そしてついに私と彼女自身の大好物、フライドポテトを食べるために、ジャガイモの苗を一生懸命植えるまでになりました！
 農業体験の素晴らしさ、それは作物を育てるだけではなく、自然と触れ合うことができるということではないでしょうか。ほかの子どもたちと大きな蛙を見つけたときは手のひらに蛙をのせて喜んでいました。自分自身で植えた作物や、農業体験のスタッフや参加者の方々に尊敬し、楽しく話しをしている娘をみると、この農業体験に参加することができて本当に良かったと思います。この農業体験のスタッフ、そして活動に大変感謝しています。



楽しく自然にとけ込むパパと子(娘)

(上記英文の要約を奥様に書いて頂きました)

子ども、特に幼児期の子どものとって自然を感じ敬うことはとても大事なことと思います。作物を育てるだけではなく、自然を肌で触れ感じること。自然の世界がどんなに満ち溢れているかを知ることが貴重な経験になると信じています。娘は現在、この農業体験が大好きです。休憩時間のお菓子に行く途中に買えるから・・・だけではないようです(笑)

東京に通勤しているため平日に娘たちに会えない私にとって、この土曜日の農業体験は子どもたちと触れ合う大切な時間です。このような機会を与えてくださったスタッフの方々に感謝しております。

街路樹

チーム街路樹20 受託事業報告

横山 さえ子

街路樹の研修・見学会(その一)

十一月八日(火) 参加者十八名。

こぬか雨のふるちよつと天候が心配な出発でしたが、外環道では「私たち晴れ男、晴れ女だもんね」と言っていた通り、雨の心配は全くなくなりました。関越道の東松山で降り、ときがわ町に。

面積の七割を山林が占め、「木のくに」として、森や木々を大切に守り育ててきた町です。

「巨木の里」を片手にまずリンボクを訪ねました。小さいけれど歴史のある龍福寺の山際にあります。知っていなければおとしませ。西日本には自生しているが、このあたりでは珍しい稀少木です。秋に花が咲き、次の年に実がなるのとのこと。何個かぶらさがっていました。

次は個人宅の庭先にある大イチョウ。残念ながら黄葉はまだでした。幹周九m・高さ三十四m、案内板には大同二年(八七年)の言葉がありました。元禄の二度の大火で炭化した部分も残って

いるそうです。屋根に煙り出しのある大きなお宅でした。地元の二人の方がきて、昔は蚕をかつていたこと、山や畑、たんぼを持つ大地主だと教えてくれました。近くのバスストップも「木」でつくられていたのが印象的でした。電柱にも美しい文字で「木のむら」と書かれた看板がついていました。

次は山道をどんどのぼったところにある慈光寺の「タラヨウ」です。赤い実がビッシリとついで美しい。半月ほど前の下見のときは気がつかなかったそうです。よいときに見学できました。紙がとも高価だった昔、この葉にとがったもので文字を書いてやりとりしたことから「葉書」の語源になったそうです。幹周二・七m高さ十八m。

次の子持杉は、男杉と女杉が合体していて、拝めば子宝に恵まれると言いつたにいます。この萩日吉「何ですか」と女性がやってきました。この萩日吉神社の宮司さんの奥さんでした。宮司さんもみえて「御神木は、上の神社のわきのウラジロガシです」と案内していただきました。「裏も見て」とのこと。にのぞくと、根ががけに籠のようにうねってみえています。

岩盤があるためだそつです。

そこから急な山道を登って「大カヤ」を見学。



大カヤの見学 増田 11.11.08

幹周七m、高さ十六m、一部枯れた枝もありましたが、実も少し落ちていて元気な木です。道はすべりやすい粘土質の悪路でした。幸いすべった人はいないようです。

昼食は大門第二小学校跡です。ずいぶん山道をさが登ったところにあります。何軒かある家の子どもたちは、どのようにして学校に通うのでしょうか。あるいは子どもはいないのでしょうか。トイレを借りましたが、水洗なのにビックリ。きれいな水でした。山が深いので良い水もでるのでしょう。

(次号につづく)



里山自然観察隊

平塚 芳雄

十一月の活動状況について

十一月は今年度第三回目の植物観察会と定例のモニタリング1000里地調査を実施しました。今回の植物観察会は「季節の草木を探そう」をテーマに、牛久自然観察の森及びその周辺で、この時期、蕾(冬芽)、開花、結実の状態にあるもの、紅葉したり落葉しつつある植物、特に樹木を探し観察しようとするものでした。

十二日(土)の観察会当日は前日までとは打って変わり、暑い寒いもない晴天で絶好の観察日和だったので残念ながら参加者は二人だけ。参加者は少なかったのですが予定の内容で予定のコースを歩きました。放射能の除染作業で表土が剥がされた園路は昨日の雨でぬかるんでいました。出発地の駐車場近く、タヌキの林の道路際にゴンスイが五、六本あるのを確認。日頃良くここを通るのに気づいていなかったのですが上の方の枝に赤く裂けた袋果と黒い種子を未だ幾つか付けていました。



年輪を数えたスギの切り株

スギ、ヒノキが主体であるタヌキの林で先月の台風で倒れたのかスギの切り株（直径四十cm程）が残っており、年輪を数えたところ正確ではありませんが四十、五十年のものと思われま。当時、スギ、ヒノキは重要な建築材であり、建築材供給のため植林が進められたのでしよう。ヤマウルシも若木二本確認、黄葉し始めていました。

以前、雑木林であったコジユケイの林では主体であるクヌギ、コナラの黄葉が始まり、ヤマザクラは既に葉の殆どを落としていました。ムラサキシキブは一部の木にまだ紫色の実をつけているものもあり、ニシキギ、ウメモドキが赤い実を、サワフタギが黒い実をつけていました。

牛久自然観察の森正門を入ると、北東の方向に晩秋の透き通った青空をバックに、クヌギやコナラ等茶褐色から黄色みを帯びた紅葉樹と、緑の常緑樹との梢が連なり見事な景観を作り出していた。タムムシの林でのヒイラギの花も印象に残る白さでした。

落葉を踏んでその音を感じながら歩くことは精神衛生上良い事と聞きましたが今回はそれを実感しての観察会でした。十二時少し前に出発地の駐車場に帰着。

毎月行っているモニタリング200里地調査は十一月十五日（火）に実施しました。参加者は三名。天気も気温も問題なく効率よく進めたつもりでしたが調査終了は午後一時三十分を過ぎていました。延べ約四六〇種の草本植物を確認記録。今回の調査はおみやげ付き、ズボンにイノコズチやオナモミなどのひつき虫がくっ付き、取るのに一苦労。



あやめ受託事業報告

佐藤 輝雄

アヤメ園の近況

うしく観光アヤメ園。十一月後半に入りやっと！雑草との戦いが終わった。今年も戦いは長かった。勝ち名乗りをあげてもいいのだろう。

今は園路の除草も終わり全体を見回すと整然としたアヤメ園を見回すことができる。思い出せば七、八、九月のあの暑さ厳しい中を、畝起こしと株分けの作業に入る。雑草にも追われ、仕方なく八月から週の木曜日の他に臨時で作業を行う。九月からは毎週、月・火・木と三回の作業となる。

しかも、昨年と同じく毎日続く猛暑。メンバーが持つてきてくれる、キューリの塩漬け・梅干し等を食しながら何とかやり通した。そして、暑い時間帯を避けるため七月、九月は、早朝六時三〇分～一時三〇分の作業とした。従って家での起床は五時ごろ、そして六時には家を出る。本当に好きでなければできない作業である。

今のアヤメ園のメンバーは、今年頼もしい方が三人加わり総勢十六人。十六人全員がアヤメ園を愛し、つらい作業でも誰も愚痴をいう人はいない。

それも六月の一ヶ月弱だけの開花を迎えるために、暑い夏も、寒い冬も働き続けるのみである。来季も

素晴らしい花菖蒲が咲き乱れることを願うのみである。敷地も一・五倍になり多分見事な花菖蒲園になることだろう。

アヤメ園のメンバーはそれぞれ特技を持っている。従って話題も豊富で毎日が楽しい。歴史の研究者テレビも時代劇にはまるSさん。年にも負けずに山男で富士山に取りつかれたMさん。Mさんは彼岸花にも取りつかれたアヤメ園を彼岸花で埋めつくのが夢。そのほか、クラシックの愛好家・ピアノの名手・カラオケ大好き・料理研究家・野草、野鳥の専門家・土木技師・土木の伝授を受けた若きホープ・耕運機では右に出る人はいないプロ・家庭菜園のプロ・ジャガイモの先生・メンバーの親睦を取り仕切る宴会屋さんを紹介すればきりが無い。みなさんも一度アヤメ園に来てみませんか。絶対にはまること確定です。

その他にも自然を経験するには宝庫の山だ。今までのアヤメ園の記事を見ていただければ全てお分かり頂けると思う。トンボやバッタ、カエル・ザリガニ・ネズミ・メダカ・ヘビ、なんでも見られる。

我々作業していると、イナゴも私たちの頭や背中にも留まり仲間として溶け込んでいた。イナゴを良く見てみると大きなメスの上に小さなオスがおんぶしている。交尾して産卵するためだが、すでに役目は終わっているとも思われるの



整然となった園路や田んぼ

に、いまだにしつこくオスはおんぶしている。気の毒なのはメス。私たちが除草していると、目の前を必死に逃げ惑うが、飛び跳ねるのは下のメス。オスは平然とおんぶしたままである。そして、水の中に落ちて溺れまいと慌てふためいているのはやはりメス、そんなときでもオスは知らん顔でおんぶしたまま。本当にメスは気の毒である。人間の社会とは逆の世界かも！私はアヤマ園のこんな魅力に取りつかれた一人である。

小野川探検隊に参加して

佐藤 輝雄

十一月十二日、竜ヶ崎市で開催された「小野川探検隊」にスタッフとして参加した。

小野川探検隊とは牛久市内を流れる「小野川」流域の市町村（つくば市・牛久市・阿見町・竜ヶ崎市・稲敷市・美浦村）の子どもたち（小学生）を対象に小野川周辺の自然・歴史・文化などに触れる体験を通して水質浄化を目的に、各地区の行政やうしく里山の会等を含む三十七団体で活動している。今回の場所は竜ヶ崎森林公園。参加者は約二十名と少なかつたが小野川の水の水質検査・小野川で採った小魚（メダカ・フナ・コイ・川エビ他）の生態等の勉強を行った。

また、公園内の植物やキノコ等の勉強も行われた。



小野川の水質検査を行う子どもたち 坂 11.11.12



第六回目

理事 齊藤 孝

「自然と人が調和した美しい環境を保全し、未来に引き継ぐ」、会の目的に掲げられた一文です。

私はこの言葉に出会って本当に感激しました。本会がNPO法人として茨城県より認証を受けたのは七年前の平成十六年九月二十九日、私はその約二年前、平成十四年十一月「うしく里山の会設立準備会」発足時より会に関わっています。

当時行われた話し合いの中で、特に印象深く残っているのは、法人化を目指すにあたっての目的（ミッション）の設定についての議論です。

完成された定款には、『この法人は、牛久ならびにその周辺地域を主な対象として、「自然と人が調和した美しい環境を保全し、未来に引き継ぐ」ために、地域住民主体の環境改善活動・支援に関する事業を行い、豊かな里山の環境づくりに貢献する事を目的とする』とあります。この百文字程の文章に辿り着くまでに交わされた議論は、後の法人運営に大きなヒントを与えるものばかりでした。



「法人化して、五年、十年と経過し、様々な事業が成果を上げた時にこそ、原点に立ち返り、目的の確認をする必要がある。その時に役に立つ、気持ちを奮い立たせるような言葉が必要だ」という出席者の発言を耳にした際は、これからどんな夢のある事業がスタートするのだろうと期待に胸が膨らんだのと同時に、自分達の立ち位置を確認する時何何時か来るのかな、と漠然と感じたことを良く覚えています。

あれから九年、私達の会は様々な事業を通じて、その目的に向かい続けてきました。調査・普及・管理といった其々の事業の中で、出合いや発見があり、成果を上げてきたのではないかと思います。

そういった中で今年三月に震災が起こり、事業の今後の在り方について様々な議論を委員会・理事会で行いました。このような形で、自分達の活動の目的・原点を再確認する事になったのは、本当に思いがけないことでした。

震災は牛久やその周辺地域を取り巻く里山の環境に多大なる影響を及ぼしました。畔や斜面地の地割れの修復が進み、表面的には以前と何ら変わることもなく見える美しくのどかな里山の風景の中に、数十年、百年単位で滞留するであろう放射性物質が飛散している事を思うと、現世代の未来の為、次世代の為、地に足のついた息の長い地道な調査・除染活動が求められているように思います。

今後どのようにして「自然と人が調和した美しい環境を保全し、未来に引き継ぐ」か、会としてどう貢献していくのか、一会員として何が出来るか、改めて考えさせられ、現在も考え続けています



結束町みどりの保全区
エコアップ作戦 齊藤 孝

うしく里山の会全体事業

里山保全ボランティア

「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」

参加者募集のお知らせ

牛久市結束町の牛久自然観察の森に隣接する「牛久市結束町みどりの保全区」の森林維持管理作業を行う「エコアップ作戦」

では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行なっています。活動には会員・一般問わず参加出来ます。皆様のご参加お待ちしております。



十二月の活動日時

二日(金)午前九時～十一時半

十八日(日)午後一時～三時

(冬季のため短縮)

集合 牛久自然観察の森ネイチャーセンター

一階倉庫前

(予約不要/荒天時は中止)

ホームページに情報掲載)

持ち物 長靴、軍手(長袖、長ズボンで)

刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ

問い合わせ先 029-874-6600 担当:石神



牛久自然観察の森だより
チーフアドバイザー 齊藤 孝

会員有志による除染作業の進捗報告

牛久自然観察の森園内における会員有志による除染作業の進捗についてご報告します。

これまで、九月「タヌキの林からコジユケイの林までの園路(土)」、十月「コジユケイの林内園路(土)」、十一月「十字路からカップパ沼までの園路(土)」の表土剥ぎ取り(土のう詰め)を実施しました。実施後は地表面での空間線量が半減した場所が多く、概ね牛久市の基準値を下回る成果が得られました。(空間線量に関する詳細は観察の森ホームページをご覧ください)

また、観察の森職員が今年八月から毎月一回実施している、園内二百力所の空間線量定点調査(地表ゼロcm)では、当初一マイクロSv毎時を超えていた数力所の除染も進み、全ての調査地点で一マイクロSvを下回りました。(十一月の調査時点では、二百力所の内、三力所のみ0.6マイクロSvを上回っています)

一方、課題として残っている「草原(芝)」の除染については、土や砂のみで構成される園路とは異なり、生態系の復元を考慮しながら土壌表面の剥ぎ取りを進める必要があります。今冬、「パツタ原」や「観察舎前」、「梅林」などで作業を実施する予定ですが、試行錯誤が予想されます。

最後に、タイルやアスファルトの除染についてですが、こちらは今後実験的に、放射性物質を含んだ塵や土を吸着する特殊な樹脂の利用を検討しています。効果がどの程度得られるかは未知数ですが、これまでとは違う手法も色々試して進めていきたいと思います。

身近な樹木 No.9 イヌガヤ

イヌガヤ科の常緑針葉樹。小高木から低木で、高いものは10mになります。岩手県以南九州に分布、県内では山地から平地まで広く自生しています。市内では斜面の照葉樹林の低木層に生えている比較的身近な里山の樹種です。



イヌガヤの果実 渡辺 11.9.29
べられ ない かつ、諸説あり ます。(渡辺泰)

樹皮は暗褐色、浅く縦に裂けます。葉は互生し、線形で長さ三〜五cm、幅三〜四mm、先はとがっていますが、触ってもカヤのように痛くありません。表面は暗緑色、裏面には灰白色の気孔帯があります。雌雄異株。三〜四月、雄花は前年枝の葉腋に、球形の黄色い十個ほどの雄ずいがつきます。雌花は前年枝の頂部の葉腋に一〜二個つきます。種子は十月に熟し、卵形、楕円形で長さ一五cm内外、写真のように外種皮は紅紫色の肉質です。大木になることは少なく、用材に用いられることは多くありませんが、材は淡黄色、緻密で硬いため、小型の器具や細工物に使われます。種子から油を採り、灯油は頭髪用に用いられますが、悪臭があるため普及しませんでした。名前の由来はカヤに似るが役立たないとか、果実が硬いので食べられないといふ説があります。

2011年 12月 NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
				1 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	2 里山保全ボランティア 9:00NC クラフトプロジェクト 13:00NC	3 親子農業体験講座 9:00畑 チーム'街路樹20(受) 9:00役所脇・落葉かき
4 巨木リサーチ2(特) 8:30ボランティアC	5 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P 自然観察出前講座	6 森の畑 9:30畑	7 チーム'街路樹20(受) 9:00役所脇・落葉かき	8 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	9	10 里山自然観察隊 (モリカゲ 里地調査) 9:00得月院P チーム'街路樹20(受) 9:00役所脇・落葉かき (会報等原稿受け)
11 雑木林応援隊 9:00ムジナ	12 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	13 森の畑 9:30畑	14 チーム'街路樹20(受) 9:00役所脇・落葉かき	15 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	16 クラフトプロジェクト 13:00NC	17 チーム'街路樹20(受) 9:00役所脇・落葉かき
18 運営委員会9:00NC 理事会11:00NC 里山保全ボランティア 13:00NC	19 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	20 森の畑 9:30畑	21 チーム'街路樹20(受) 9:00役所脇・落葉かき	22 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	23 雑木林応援隊 9:00炭屋	24 チーム'街路樹20(受) 9:00役所脇・落葉かき 13:00市ボランティアC 交流会
25	26 (休園日)	27 会報発送 13:00NC	28 チーム'街路樹20(受) 9:00役所脇・落葉かき	29 (休園日)	30 (休園日)	31 (休園日) チーム'街路樹23(受) 9:00役所脇・落葉かき

活動日は天候等により変更となる場合があります。
最新情報はホームページをご確認ください。

- 【凡例】
- 森: 牛久自然観察の森
 - NC: 牛久自然観察の森ネイチャーセンター
 - P: 牛久自然観察の森駐車場
 - 炭小屋: 牛久自然観察の森駐車場奥の炭小屋
 - 畑: 牛久自然観察の森駐車場奥の畑
 - コジュケイ: 牛久自然観察の森コジュケイの林
 - 観察舎: 牛久自然観察の森内観察舎前の畑
- ムジナ: 結東町の雑木林(通称ムジナの里)
- 市役所: 牛久市役所本庁舎
市役所脇: 市役所隣の近郊公園
ボランティアC: 牛久市ボランティア市民活動センター
中央生涯C: 牛久市中央生涯学習センター
- アヤマ園: 三日月橋観光アヤマ園
- (休園日): 牛久自然観察の森休園日
(受): 受託事業
(特): 特別事業



編集後記

この会報が皆さんに届く頃は十二月。今年も何とか十二回の会報を発行することができ少々ホツとしている。しかし編集等をしていけるとアツという間に一年が過ぎてしまふ。今年も忘れられない大きな出来事があり、今でも健康被害や環境問題が懸念される毎日と向き合っていて過しているが、当分は逃れることはできない。

先日、家庭菜園をしている畑で作業をしていたら面白い光景を見た。トンボの「アキアカネ」が雌雄繋がり産卵の行動をしていた。ふつうは水のある場所に産卵するものだが、畑に敷かれた農業用のビニールシートに尾先を付け必死に産卵をしている。多分太陽にひかるビニールシートが水面に見えたのかも知れない。一寸可哀そうな気にもなった。

トンボの産卵について調べてみた。ナツアカネ・アキアカネ等の赤トンボは、産卵の方法が二通りあって、一つは空中産卵(打空産卵)で稲や田んぼの上(空中)で卵をまき散らす方法、もう一つは水溜りに直接産卵する打泥(だいでい)産卵があるようだ。

ちなみにトンボの交尾は、オスの尾先でメスの首を捉まえて、メスは尾先をオスの腹部の交尾器までのばし交尾する。そして産卵はオスがメスの首を捉まえたまま行う。

トンボの種類によって産卵方法は異なる。ギンヤンマ・アキアカネ・ナツアカネ等は雌雄が連結したまま。オオシオカラトンボ等はメスが水草などに産卵するのを、オスがホバリングしながら上空で見守る。

また、トンボは勝ち虫とよばれる縁起物で前にか進まず退かないところから「不転退」の精神で特に武士に喜ばれ、兜や鎧の装飾に使われたようである。(ウィキペディアより)

佐藤輝雄記

広報委員会からのお知らせ
次号2012年1月号の発送は12月27日(火)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。(尚、発送日・時間につきましては都合により変更する場合がありますので事前に御確認いただければと思います)よろしく願いいたします。